



独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

MEDICAL
URESHINO
CENTER

うれしの

2016.1

第46号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心して安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にするとは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 迅速で質の高い救急医療 2 安全、安心で思いやりのある医療 3 地域に根ざした地域のための医療 4 新病院建設を視野に入れた経営基盤確保 | <ol style="list-style-type: none"> 5 情報技術による充実した医療 6 病院機能の見直しと展開 7 将来を担う医療人の育成 8 治験、臨床研究による医療への貢献 |
|---|---|

患者さんの権利

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 2 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 4 プライバシーが守られる権利 | <ol style="list-style-type: none"> 5 常に人としての尊厳を守られる権利 6 医療上の苦情を申し立てる権利 7 継続して一貫した医療を受ける権利 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |
|---|--|



年頭所感 (雑感)

院長 河部 庸次郎

昨年末にヒットした「下町ロケット」には、熱くさせられるものがありました。昭和の時代から勧善懲悪、判官贔屓といった基本的な精神構造が私の中にも植え付けられていて、権威ではなく、誠実で不利な状況で戦っている人達に多いなる声援を送りたいとの願望があるようです。一方で、日本人には「巨人、大鵬、玉子焼」といわれる様な大勢になびく人々も多く存在していました。ちなみに私は巨人贔屓でしたが最近は野球離れしていて、プロ野球の観戦も殆どしなくなりました。大鵬は強すぎて好きじゃありませんでした（というか、長崎が地元の佐田の山ファンでした）。今日のAKB48を主体とした少女アイドルグループの人気は、身近な人に親しみや憧れをもつ心理が働いているようです。かつての銀幕のスター達や栄光のアイドル等が遠い理想の存在であったのとは若干趣が異なっている気がします。さて、「下町ロケット」では、大企業や大銀行などが権威を傘に着て、弱者である中小企業をいじめ、つぶそうといたします。ドラマの佃製作所の職員達は時に社長のやり方に反発しながらも、技術者としてのプライド、営業マンとしてのプライド、財務を預かるものとしてのプライドによって、一丸となって大企業や銀行、大学教授や行政をも打ち負かしていきます。

ドラマまでではないにしても、やりがいを持って、一生懸命に仕事をする人達が幸せになれない職場になってはいけなと、つくづく思います。嬉野での医療は地域・地方での医療ですが、もしかしたら私の僻みかも知れませんが、地方は都会に搾取されているような錯覚を覚えます。多くの若者達が都会にいてしまうこと、人口の集中は経済の集中であり、都会と地域の格差は少しずつ広がっているのが現実であり、地方創生という政府の方針に何となく具体策の乏しさを感じるのは私だけでしょうか？実際、人事院勧告による地域手当の増加は益々都会と地方の格差を実証している様に思えます。

世の中の様々な力学は、いろんな方向に働きながらも必然的に都会に集中するベクトルを生み出しています。しかしながら私は、あくまで漠然とですが、嬉野医療センターの良いところをもっともっと引き出すことができるのではないかと考えています。それは、とりもなおさず、嬉野の良いところであり、地域の良さであり、人間生活の懐かしさであり、いとしさであります。人と人との心の触れ合い、通い合いでもあります。また、それは、見渡せば眼前に広がる草木の緑であり、その中に色を添える花々であり、そして包み込むように漂っているこれら自然を作り出す土のにおいでもあります。コンピューターや最新の機器の進歩とはうらはらに、やはり、最も大切なものは人、本来の持っている人と人とのつながりであり、自然に親しむ心であることを痛感します。2016年の年頭にあって改めて、今年もなお一層嬉野の良さを十分に発揮できる病院であるようにしたいと思っています。



病院機能評価を受審して

副院長 岡 忠之

2015年12月10、11日の2日間、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベヤー）が、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価し、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」です。すでに全国の病院の約3割が認定されています。

当院は2006年に最初の認定を受け、2011年に更新し、今回で3回目の受審となります。今年は新病院建設の準備、電子カルテの更新の年と重なることから、機能評価の受審がかなりの負担になるのではないかと危惧されました。しかし、受審の準備過程で新電子カルテの機能・内容に反映させる機会になるかもしれないとの期待があり、今年の受審を決定した次第です。2014年5月に熊本市で開催された「病院機能改善支援セミナー」を受講し準備を開始しました。その後病院機能評価プロジェクト委員会を立ち上げ、受審までの1年間のスケジュールを決定しました。2015年1月19日に受審に向けての全職員を対象とした“キックオフミーティング”を開催し、病院全体として受審に向けてスタートを切りました。統括診療部長を第1領域責任者、看護部長を第2領域責任者、薬剤部長を第3領域責任者、事務部長を第4領域責任者とし、まずそれぞれの領域での自己評価、それをうけての改善作業を3回繰り返しました。その結果、表のように自己評価は改善されました。

今回の更新における最重要課題がケアプロセスでした。即ち1人の患者を外来受診、入院治療、退院、外来診療という一連の流れにおいて、病院全体としてチーム医療が適切に行われているかの評価です。そこで領域責任者を主として全病棟と部署を訪問して質疑応答し、それぞれの所での多職種間の課題を抽出し改善する機会としました。特に今回は臨床倫理への取り組みが当院として不足していた事もあり、スタッフがこの点を意識的に力を入れているように思われました。これと同時進行でマニュアル、手順書、説明同意書、色々な規約の見直し、新規作成を行いました。10月に入りケアプロセス調査対象の4つの病棟を東2、西2、東4、5病棟と決定し、本受審までにこの4つの病棟はもう一度本番さながらに部署訪問を行いました。幸い環境整備、マニュアルなどの書類の整備、ケアプロセス調査での症例提示の準備を終え、12月8日に受審に向けた総決起集会を行い、程よい緊張感や、多職種間の団結が見られたような感じがしました。

いよいよ12月10日の本番を迎え書類審査、部署訪問、ケアプロセス調査など順調に進みました。最後の講評・意見交換の所でサーベヤーから多職種間のチームワークが良くできているとの感想を頂き、各部門の周到的な準備、取り組みが良くサーベヤーに伝わったのではないかと確信しました。一方において説明と同意書の病院としての管理の必要性、患者の権利の職員への教育不足など、今後当院としてやるべき課題の指摘もありました。受審の結果は2か月後の通知との事ですが、これらの指摘事項は、今後もプロジェクト委員会、担当部署で検討し改善する予定です。

病院機能評価の受審目的は、これに合格する事が第1の目標ではなく、これを機会として病院全体を自ら見直し、チーム医療の質の向上に職員一丸となって取り組む事です。職員の皆様がこの事をよく理解し、一丸となって取り組んで頂きました事に、心から感謝致します。ご苦勞様でした。有難うございました。

各領域の最終評価

()は1回目の評価

	S	A	B	C
第1領域		20(2)	1(15)	0(4)
第2領域	0(1)	27(2)	6(22)	0(8)
第3領域	1(1)	12(5)	1(7)	0(1)
第4領域		21(12)	0(9)	

第1領域 : 患者中心の医療の推進
第2、3領域 : 良質な医療の実践
第4領域 : 理念達成に向けた組織運営

S:秀でている
A:適切に行われている
B:一定の水準に達している
C:一定の水準に達していない



「お待たせしない」 入院案内サービスを目指して

看護師長 福本明美

看護部ではH 27 年 8 月から予定入院の患者様が受付手続きを終えた後、すみやかに病棟へ案内する「お待たせしない」入院案内サービスを開始しました。

これまでは予約の患者様が病院に到着して入院の手続きをされた後、入院受付から入院病棟へ連絡があり、病棟から看護師もしくはクラークがお迎えに行くといった方法をとっていました。しかし、受付から病棟への連絡が上手くいってなかったり、連絡が来ていても病棟から迎えに行くのが遅くなったりで、予定の時間に來られた患者様を長い時間お待たせしてしまうという状況が発生していました。当然患者様からの不満の声も上がり、「予定入院なのにこれでは申し訳ない、なんとかしなければ」と考えられたのがこの取り組みです。

この入院案内サービスを検討するにあたりクラークをお願いしたいと考え、看護師長 2 名・副看護師長 2 名・クラーク・医事課の受付係りでチームを作り、業務改善と患者サービスの両面から活動を開始しました。まずクラークは前もって業務調整をし、担当できる曜日や時間帯を決めました。平日の予定入院の患者様が集中する午前中の時間帯（9:30 ～ 11:30）にそれぞれ 2 名が入院受付付近に待機し、入院の手続きを済まれた後は速やかに病棟へ案内するようにしました。初めは患者様の案内に、戸惑いや不安の声もありましたが、事前にこの取り組みの目的を伝え、デモンストレーションを実施したことでスムーズに導入できました。

案内を担当する者はピンクのストラップを首から掛け、ネームホルダーに“入院案内係”と表示しています。患者様を病棟に案内する道すがら、入院後に利用するリハビリ室や売店、キャッシュサービスなどの場所や利用時間など細やかに説明しながら行っています。説明の項目については統一できるようにポケットサイズのカードにして携帯し役立てています。日頃から身だしなみや接遇それも患者様の対応には抜群の能力を発揮してくれているクラークです。丁寧な対応は患者様にはもちろん、病棟スタッフにも好評です。開始から 5 か月経ち、入院案内係が認知されるようになってきて、病棟へ患者様を案内した後、病棟のスタッフとの引き継ぎもスムーズにできるようになってきました。

「丁寧に案内してくれてありがとう」「今回の入院は手続きの後は待たなくてよかったよ」など患者様からの言葉も励みになり、患者様の入院生活のスタート地点から最高のサービスが提供できるようとなお一層力が入っています。目指すはホテルや旅館のお出迎えです。今日もおもてなしの心でお迎えし、気持ちのこもった案内をさせていただいています。

今後、入院患者様の声や病棟スタッフ側の意見などを拾い上げ、業務改善を行いながら、サービス向上の一環として継続していけるようチームで検討を行い、さらに向上して行きたいと思います。



★入院案内★



入院案内係の名札
ピンクのストラップが目印



自己紹介をして、案内スタートです。



ここが入院病棟になります。



エレベーターを待つ間、病院内
の案内や説明を行います。



入院病棟に到着後、病棟看護師に引
き継ぎます。お大事になさませ。



担当の病棟看護師です。
よろしくお願いいたします。

第3回

当院臨床研修医 修了者の今

シリーズでお伝えしております「研修医の今」、三回目となります今回は
現在当院に勤務されている池田圭先生です。

初期臨床研修 初期臨床研修 2013/04/01 ~ 2015/03/31

はじめまして！

嬉野医療センター 消化器内科 池田圭と申します。

2013年4月の初期研修からレジデントとなった現在まで、ここ嬉野医療センター
でお世話になっております。こちらで初期研修をするきっかけになったのは長崎医学
部5年生時の呼吸器外科実習の際に講義をして頂いた、現在当院副院長であります
岡忠之先生から見学に来ないかとの声を掛けて頂いたことでした。

元々嬉野出身であったため当院での研修には興味はありましたが、当時長崎大学に
通っていた身としては、やはり県外の病院に行くことに少なからず抵抗を感じていま
した。見学に行かせて頂くにしても、当時は面識のある先生方も少なく、悩んでいる
状態でした。そんな時に声をかけて頂き、見学に来て、この病院で2年間がんばって
みようと思い、嬉野医療センター基幹型の研修プログラムを選択させて頂きました。

当院での研修プログラムは内科
6ヵ月、救急・麻酔科4ヵ月、選択
必修、地域医療の研修を終えると、
残りの期間は基本的には自由に科目
を選ぶことができるという、とても
自由度が高いものでした。実際、現
在所属している消化器内科には1
年目の2か月と2年目の5か月の



計7ヵ月の研修を受けさせて頂きました。当時は研修医がそれほど多くなく、自分が
勉強したい科を存分に選択できるのは嬉野医療センターのメリットだと思いました。

3年目になり、長崎大学消化器内科に所属させて頂きましたが、自分の置かれてい
る状況の都合もあり、引き続き当院でお世話になっています。今年度、来年度と研修

医の数も徐々に増えてきており、今後ますます多くの研修医の方が当院に来てくださることを喜ばしく思っている今日このごろです。

話は変わって、現在の自分の勤務形態ですが、一週間のうち火曜から金曜までの4日間を当院レジデントとして、月曜、土曜の2日間を嬉野で開業している実家で非常勤医師として診療させて頂いております。当院では多くの先生方のご指導を頂き、また、ご迷惑も多数お掛けしているとは思いますが、上下部消化管内視鏡検査や大腸ポリープEMR、まだまだ少数ではありますがERCPまで徐々に行っております。

まだまだ未熟なところが多いですが、目下の目標はESDまでできるようになることです。

また月2回の当直も行っておりますが、医療圏が広域であることもあって、風邪などのcommon diseaseから急性心筋梗塞や脳卒中、吐下血まで一晩で様々な患者さんが多く来院されるためなかなか慣れてきたとは言いがたいのが現状です。しかしながら、少しでも地域の方の疾患の改善に役立てたらと思い日々診療に励んでいます。今後についてですが、まず来年度は内科認定医を受験可能な学年になります。試験合格を目指してそちらの準備、勉強も徐々に行っていこうと思っております。いずれは現在父が開業している診療所を継ぐことを考えていますので嬉野医療センターには末永くお世話になるかと思っております。

最後に、日ごろは勤務に追われ、なかなか研修医時代を振り返る機会は少なくなっていました。初心を忘れず、1つ1つの事例を地道にクリアしていくことが大事だと再認識できるいい機会となりました。

今回このような機会を与えてくださった教育研修部の内藤先生はじめ、担当の方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



第46回 嬉看祭を開催しました!



今年の嬉看祭は「輪嬉愛々」というテーマのもと、学生によるステージ発表や講演会、バザーなどを行いました。オープンキャンパスも同時に行われたこともあり、地域の方や高校生、保護者の方などたくさんの方にきていただきテーマに沿った楽しい嬉看祭になったと思います! 学生自身、改めて看護について考える機会となった一方で、リフレッシュする機会となり、よき1日を過ごすことができました☆

嬉看祭 実行委員長 仙波利誉子



健康 コーナー

血圧測定や、健康について調べたポスターの展示を行いました。



特別講演は心魂プロジェクトから寺田真実先生と有永美奈子先生をお迎えしました! テーマは「一歩前に出る気は有るか」と題し、パフォーマンスも交えながら、病院や施設でのデリバリーパフォーマンスなど、活動の実際をお話しいただきました。



心魂プロジェクトのご紹介

『生きる喜び』を『表現することを通して共有する』という理念のもとに、劇団四季でメインキャストとして活動されていたミュージカル俳優の方々を始め、多種多様なアーティスト、パフォーマーが集まった団体です。



講演には、本院に入院中の患者様にもお出でいただきました。学生とともに、楽しんでいただけました！



ステージ発表では、
ダンスを披露しました!



軽食バザーは
大繁盛です！
みんなでおいしく
いただきました！



第69回 国立病院総合医学会報告

2015年10月2日（金）・3日（土）札幌にて国立病院総合医学会が開催され、日本全国から多くの国病関係者が参加しました。そんな中、当院からは6名の方がベストポスター賞に選出されています。その6名の方の、学会報告をご紹介します。

ベストポスター賞受賞者

部署	発表者	演 題
看護部	今福 幸	A病院の新人看護師が支援者に求める関わり
看護部	朝永 奈緒美	肝炎コーディネーターによる院内肝炎スクリーニング検査陽性者全科介入の取り組み
薬剤部	松田ゆり	当院における切除不能膀胱癌に対するFOLFIRINOX療法の使用経験
リハビリテーション科	小田洋子	移動に着目した3項目評価・嬉野式ADL評価表 第1報 ～転帰予測への活用～
リハビリテーション科	指山博伸	安全な人工呼吸器離脱を目指して～ SBT 開始基準導入前後の比較検討～
看護学校	岩谷望美	生命倫理に関するディベートの学習効果の検討

第69回 国立病院総合医学会について

看護部 東2病棟 今福 幸

第69回国立病院総合医学会に参加させて頂きました。私は新人指導に携わるなかで、新人教育についての知識や見識をより深めたいと考え「A病院の新人看護師が支援者に求める関わり」というタイトルで研究を行いました。初めての学会発表ということもあり緊張しましたが、データの収集方法や対象者の選定に関することなど、たくさんの質問を頂き、研究を行っている時には気づかなかった点やさまざまな意見を頂くことができ、非常に有意義な機会となりました。今回はポスター発表ということで、研究内容が聴衆に伝わりやすいポスターとなるよう、デザインやレイアウトなど試行錯誤を重ねながら作成しました。今回ベストポスター賞を頂くことができ、大変嬉しく思っております。学会では新人教育についてさまざまな発表を聞くことができ、自分にはなかった視点や視野を広げることができたと感じています。今回の研究の過程や成果を生かして今後も新人教育に尽力していきたいと考えています。



第69回 国立病院総合医学会に参加して

地域医療連携室 朝永 奈緒美

今回、国立病院総合医学会に参加させていただき「肝炎コーディネーターによる院内肝炎スクリーニング検査陽性者全科介入の取り組み」という演題でポスター発表をさせていただきました。佐賀県は肝臓死亡率が16年連続全国1位となっています。佐賀県では肝臓死亡率低下に向けた取り組みの一つとして肝炎コーディネーターが養成されました。

肝臓死亡率を低下させるためにはHCV/HBVキャリアの拾い上げと治療介入が必要と考えられます。当院では2012年より消化器内科医師が院内で測定された肝炎ウイルス検査陽性のすべての方へ介入を開始されており、2014年からは肝炎コーディネーターとして私もこの取り組みに参加しました。

肝炎ウイルス検査陽性者の面談を行ってかかりつけでの通院状況の確認やさらに必要な方へは精密検査のご案内をさせていただき肝炎診療に結びつくよう活動を行っています。



学会での発表は肝疾患診療を専門とされている医師の方々の中での発表でしたのでとても緊張しましたが、他の医療機関での肝疾患診療についても学ぶことができ有意義な時間となりました。また、今回肝疾患のセッションの中でベストポスター賞もいただき、充実した発表となったことを嬉しく思います。今回の発表に関して有尾先生、他ご指導いただきました関係者のみなさまへ感謝申し上げます。

この取り組みで肝炎治療に結びついた方はまだ少ないですが、陽性の患者さんの見落としが無いよう今後も活動を継続し、肝臓死亡率低下に向けて一人でも多くの患者さんが治療へ結びつくよう取り組んでいきたいと考えています。

第69回 国立病院総合医学会に参加して

薬剤部 松田 ゆり

第69回国立病院総合医学会に参加し、“当院における切除不能脾臓癌に対するFOLFIRINOX療法の使用経験”というタイトルでポスター発表を行いました。ポスター作成においては、電子カルテを用い患者個々の投与量、スケジュール、副作用発現状況などを後方視的に調査し評価しました。データを収集し、まとめていくことは初めての経験で苦労しましたが、他の薬剤師の協力のもと、作り上げることができました。統計をとり、



グラフ・表として目に見える形にすることで今まで気付かなかった点が見え、今後の業務へ生かしていけるものとなりました。学会での発表は私にとって容易なものではありませんでしたが、この経験はかけがえのない財産となりました。10月の北海道はとても寒かったですが、市内・小樽観光をしながら美味しいお料理、お酒をいただき楽しい時間を過ごしました。最後に、この場をお借りしましてポスター作成にご協力頂いた教育研修部の皆様に感謝申し上げます。

第69回 国立病院総合医学会in札幌に参加して

リハビリテーション科 小田洋子

2015年10月2-3日に札幌で行われた国立病院総合医学会へ『移動に着目した3項目評価・嬉野式評価表 第1報～転帰予測への活用～』の題でポスター発表をさせていただきました。評価表の作成意図は入院からと中間（2週間）手術退院（転院）への患者評価が数値化できないかといった取り組みでした。発表させていただき沢山の方の興味をもって頂いた事も実感できました。今回の参加はリハビリテーション科スタッフ全員と医師、病棟の協力のもとに作成できたポスター発表でした。代表としてベストポスター賞を頂くことによりスタッフへの感謝と沢山の内容秘めた研究だと感じました。受賞後スタッフに感謝しながら札幌で飲んだビールがとてもおいしく心に残る学会となりました。



第69回 国立総合医学会について

リハビリテーション科 理学療法士 指山博伸



今回、札幌で開かれました第69回国立病院総合医学会にポスター発表で参加させていただきました。

出発当日は爆弾低気圧の影響で、飛行機が欠航になり参加できないのではないかと、はらはらしましたが、数時間おくれるというアクシデントはあったものの無事に運行され、北海道の地に降り立つことができました。

学会では、様々な職種の方の興味深いたくさんの発表や講演も行われ、参加することで勉強になるとともに、今後のいい刺激にもなりました。

自分の発表においても様々な質問を頂き、今後の課題や継続した研究の必要性をあらためて感じる事が出来ました。

今回発表するにあたり、非常にお忙しい中、当科のスタッ

フの皆様、先生方にご指導頂き、臨床研修部の方々にも最後までポスターの作成に付き合ってください非常に感謝申し上げます。そのおかげで、ベストポスター賞まで頂くことが出来ました。

北海道の雄大な景色や美味しい食も堪能し、学会発表という貴重な体験もでき、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

第69回 国立病院総合医学会に参加して

看護学校 教員 岩谷望美

平成27年10月2日（金）～10月3日（土）に行われた第69回国立病院総合医学会に参加しました。

発表内容は、1年生の医療倫理の講義の一環として講義終了時に、生命倫理についてのディベートを実施した内容を「生命倫理に関するディベートの学習効果の検討」をテーマとして発表を行いました。

ポスター作製時には、伝えたい内容の精選を行い、どのように視覚に訴えれば伝えたいことが相手に伝わるのかを考えながら作製を行いました。発表内容は学生がディベートの中で学んだことと学習効果の実際をまとめたものではありませんでしたが、自分なりに伝えたいことを伝えることができたと考えています。

今回、座長より「字の大きさや表などが見やすく、相手に伝えたいことがわかりやすいポスターであった。」との講評をいただきベストポスター賞を受賞させていただく運びとなりました。相手に考えを伝えることの大切さを改めて学ぶことのできる機会となりました。

また、看護学生（2年生）が基礎看護学実習での事例発表をしているセッションもあり、今年沖縄で開催される国立病院総合医学会に向けて刺激を受ける学会となりました。



合同忘年会



どなたでしょう？

毎年恒例の嬉野医療センター合同忘年会「医嬉揚げの会」が、12月17日（木）に行われました。

今回も各職場からたくさんの余興が出され、日頃、職場では絶対に見られない、職員それぞれの一面を垣間見ることができました。

その様子を、少しでもご紹介したいと思います。

今回の優勝チームは西1病棟!!



弾けてます



最後は万歳三唱で



あつたかいん
だからあ〜

編集後記

今回の表紙は、当院から車で30分ほどのところにあります「祐徳稲荷神社」です。

日本三大稲荷の一つに数えられ、九州では太宰府天満宮に次いで2番目に多い参拝者が訪れます。新年を迎え、この日も多くの参拝者で賑わっていました。

「祐徳稲荷神社」は、商売繁昌、家運繁栄、大漁満足、交通安全等に御利益があると言われていいます。お読み頂いた皆様が、本年もより良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(編集員一同)